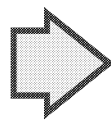


7-2. 氾濫予測用航空レーザスキャナのデータ標準の構築

航空レーザーキャナからのデータ取得

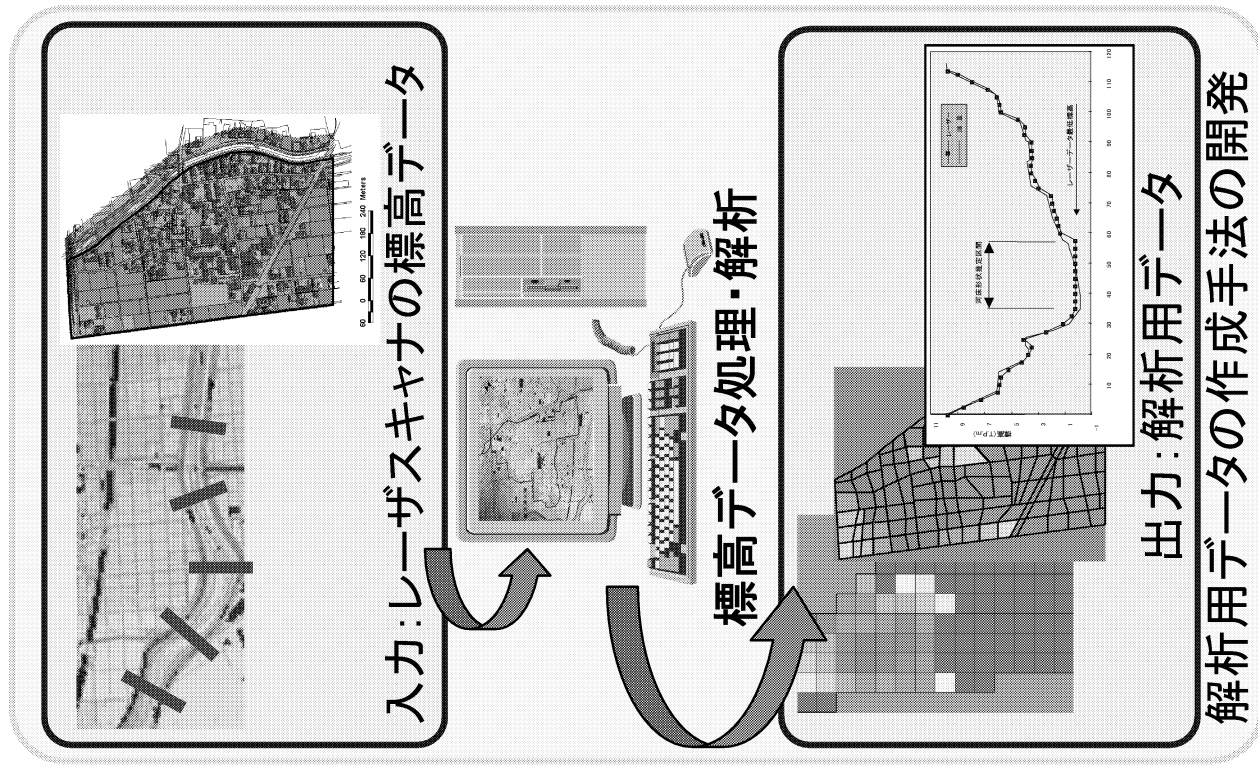
現状の課題

- ・地形データ(河道形状、氾濫原形状等)が整備されている河川が少ない
- ・従来の河道測量を広範囲で実施するには時間がかかる



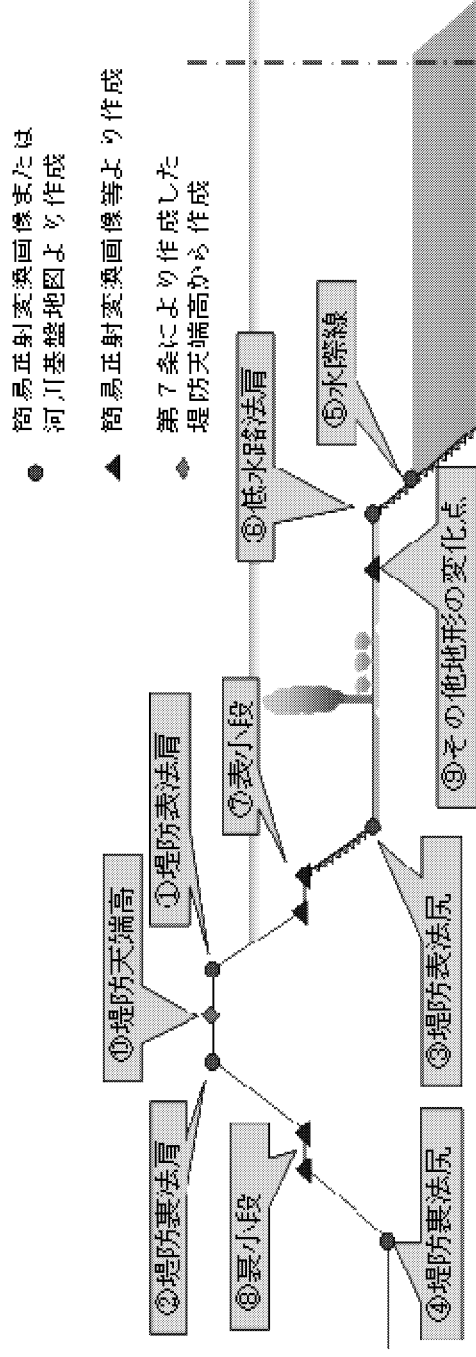
対応策

- ・航空レーザー測量により、河道形状、氾濫原形状等を把握することが可能
- ・航空レーザー測量により、広範囲の計測が短期間で実施可能



河道形状の推定方法

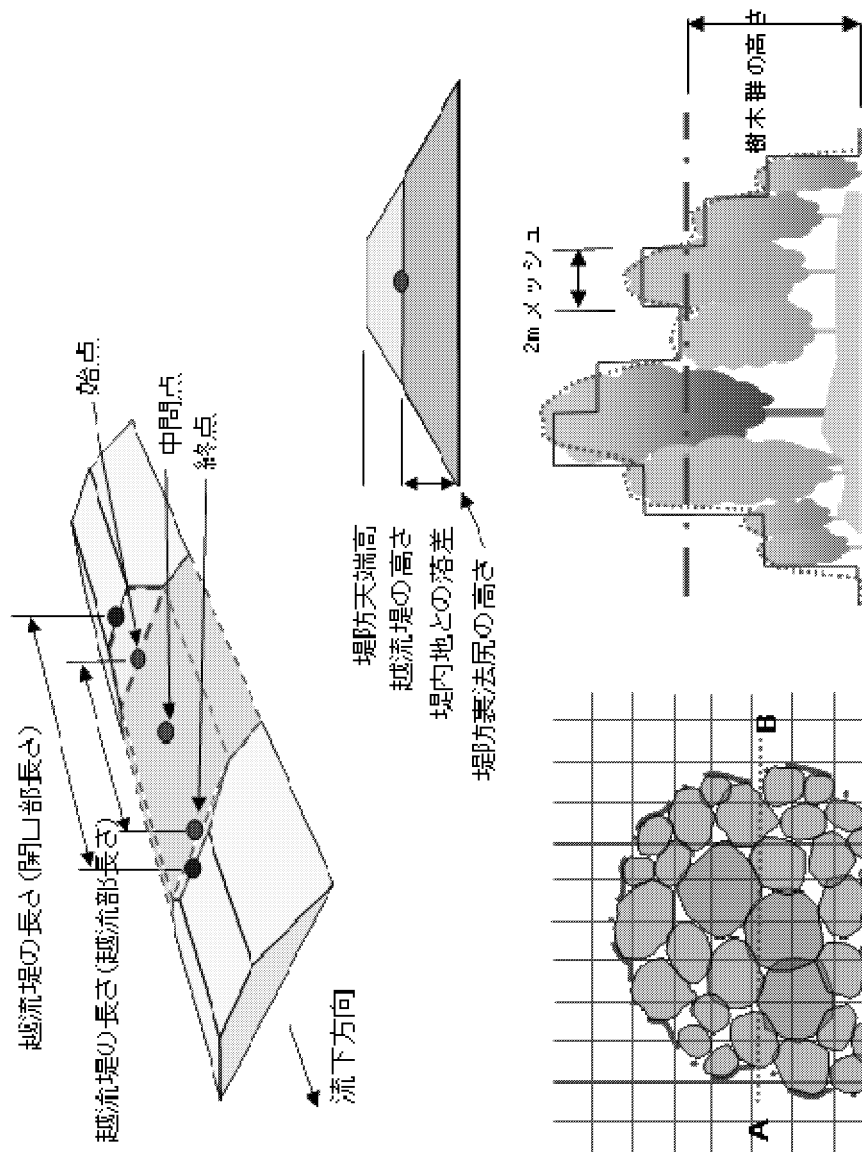
- ①横断測線を適切な間隔(概ね20m)で横断データを作成する。
- ②横断形状は、地形の変化点を結んで作成する。
- ③地形の変化点は次図のとおりである。
- ④横断測線を適切な間隔(概ね5m)で堤防天端高データを作成する。



地形の変化点を結んでの平面的な位置の作成方法は、レーザ計測とあわせて必ず作成する簡易正射変換画像を使用する方法を原則とする。なお、直轄管理区間で「河川基盤地図1/2500」を作成している場合は、これを用いるのが効率的である。

その他作成するデータ

越流堤



樹木群